No.46
昭和51年11月 初 版

各国事情のしおり

——ヴェネズエラ編——

1976.11

国際協力事業団

ARY

国際協力事業団
受入月日 '87. 4. 22
登録No. 08487
712
20
KA

はしがき

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料としてヴェネズエラに派遣されている港湾建設専門家徳田崇夫氏からの調査報告をもとに作成したものである。

本小冊子は、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、対日感情、治安等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正を行ってゆくこととしたいが、本小冊子が同国に赴任する専門家の何らかの参考になれば幸である。

JICA LIBRARY
1035433[0]

昭和５１年１１月

国際協力事業団
総務部長　木　村　敬　三

国際協力事業団
受入 52. 7. 4
登録No. 6091
PTCK
B90
As

目　　次

I　任国事情

1.　住宅（住宅事情、家賃、ホテル、什器・備品）…… 1

2.　食品（食料事情、価格、外食）…… 8

3.　衣類、日用品（衣料事情、日用品）…… 12

4.　使　用　人 …… 15

5.　医療（医療事情、医薬品、疾病の種類、健康管理上の注意事項）…… 16

6.　子弟の教育機関（教育制度、教育機関授業料、通学方法）…… 19

7.　娯楽設備（保養地等、日本人クラブ等）…… 21

8.　電　　力 …… 23

9.　交通（交通事情、タクシー、ハイヤー、レンタ・カー、自動車購入、運転免許）…… 23

10.　為替（相場、対日送金、滞在費等の受取方法）… 28

11.　出入国管理（税関検査、外人登録、ビザの更新手続等）…… 29

12.　便宜供与（種類、カウンタパート等、免税特権）… 31

13.　通信、運輸（郵便事情、運送）…… 33

14.　言語（公用語、現地語事前学習、語学学習施設）… 36

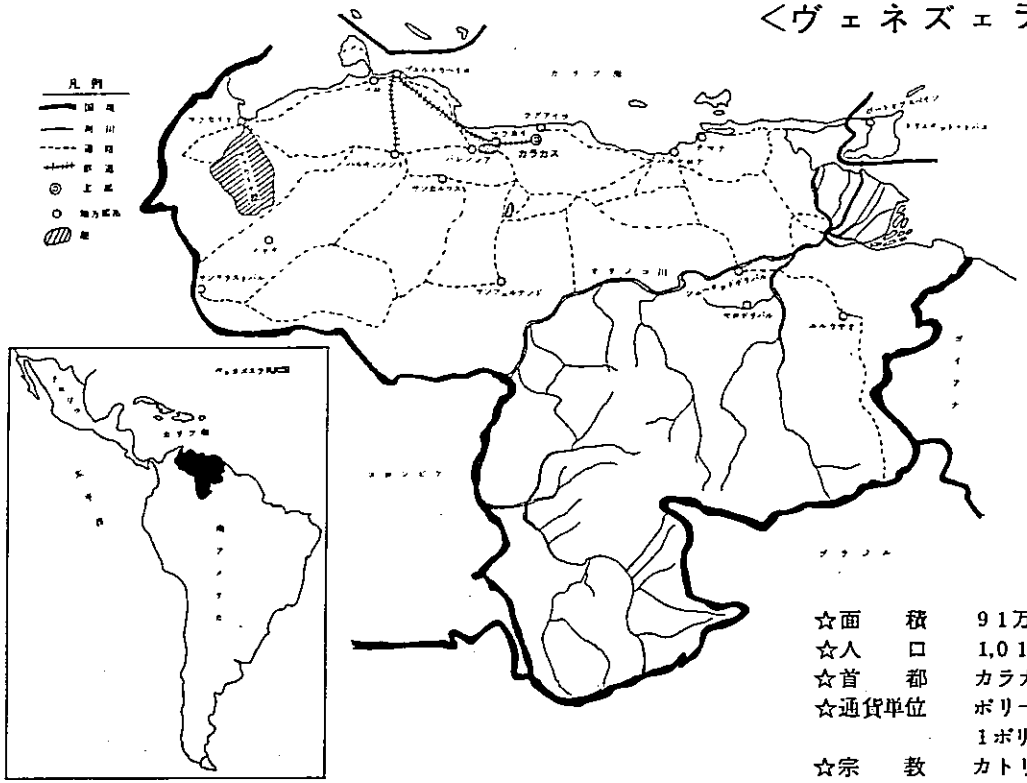
15.　気　　候 …… 37

16.　治安（一般情勢、夜間外出、緊急時における連絡方法）…… 38

17.　その他（対日感情、新聞、雑誌等、風俗・習慣、理髪、美容、買物、赴任される専門家へのアドバイス）…… 39

II　大使館連絡先 …… 45

<ヴェネズェラ共和国略図>



☆面　　積　　９１万2,０５０平方キロ
☆人　　口　　1,０１２万人（１９７１年）
☆首　　都　　カラカス（Caracas）
☆通貨単位　　ボリーバル（Bs）
　　１ボリーバル≒0.２３米ドル≒７０円
☆宗　　教　　カトリック
☆教　　育　　小学校６年間が義務教育
☆公 用 語　　スペイン語
☆住　　民　　白人２２％　　混血６６％
　　黒人１０％　　インディオ２％

1　任国事情

1. 住　　宅

(1) 住宅事情

① エージェントの有無

エージェントはたくさんあり、毎日の新聞に広告が出ている。特にEL UNIVERSALという新聞には住宅の賃貸借に関する特別のページが毎日のる。但し、専門家の場合赴任当時は言葉の問題、手続きの問題等のため現地大使館の援助により、しかるべき住宅を捜すのが最も問題が無いと思われる。

② 入手の難易度

一戸建て家屋は家賃が高い（最低で約5,000ボリーバル）うえ、防犯上の難点もあるので、ほとんどの日本人はアパートに住むこととなる。アパート不足ということはないが、ここ数年の家賃の上昇は激しく、適当なものがなかなかみつけにくい。（ＪＩＣＡの住宅手当限度額以内のものは殆んどみつけることが不可能）

特に単身者用のアパートはなかなか見つからず、やむを得ず家族用アパートを借りている日本商社員も多い。

アパートの入手方法は、

1）新聞に出る広告（場所、間取り、家具付きか否か、家賃等）を見て、家主（又はエージェント）と交渉して決める。

2）当方の希望する条件を明示して新聞広告により募集する。そして応募集の中から当方の条件にかなうものを選

択する。

3）知人等を通じて捜す。専門家の場合は、当初はこの方法が無難で、特に現地大使館の世話によるのがよい。ただこの場合、入居後いろいろな事情で他に移りたいようなとき、大使館への義理により自由がききにくいことがある。入居時の条件（例えば契約期間、契約変更時の条件等）をよく確認しておくことが必要である。

③　賃貸方法

契約時に、通常3ケ月分の敷金を要求されるが、保証人だけですむ場合もある。家賃は月払いの方法が一般である。契約期間はふつうは1年。

単身者は食事付きの下宿あるいはパンション・ホテルが経済的であるが、これは不足している。欧州にあるような良家での下宿はカラカスではできない。

④　契約上の注意

電話、駐車場は不可欠の要素であるので有無を確認する必要がある。但しほとんどのアパートには完備している。

浴室はシャワーだけのものが多いが、特に赤ん坊がいるような場合は浴槽がほしいので浴槽付きのものを捜すこと。家具付きである場合は、備品の明細を現物と照合しながら確認し、損傷等の場合の条件を明らかにしておく必要がある。

契約は、期間、家賃、家具損傷の場合の弁償方法等を明記した契約書をとりかわすが、署名する前に記載内容を充分把握（専門家の場合大使館の顧問弁護士にみてもらうとよい。）することが必要である。

また、日本側の事情で契約期間中に帰国等の事態が生じることも考えられるので、契約時にそのような事態時への対応を明らかにしておくことが望ましい。

⑤ 住宅地域の状況

カラカスにおいては、ALTAMIRA及びLOS PALOS GRANDES地区に多くの日本人が住んでいる。これら地区は優れた環境の住宅地域で交通の便もよい。

買いものは、多くのスーパー・マーケットがあり、徒歩の範囲内で不自由なく何でもそろえることができる。

但し、交通が激しく歩行帯の区別、横断歩道がなく充分の注意が必要で、特に子供の歩行・遊びには注意がいる。このため広場・遊び場の備わっているアパートを捜すことも必要である。

プール付きのアパートは極めて少なく、家賃は高い。

(ロ) 家　賃

一戸建て家屋は家賃が高い(約5,000ボリーバル以上)うえ、防犯上の難点もあるのでアパートに住むことになる。

① 1ベッドルーム・アパート

○家具無し・食事無し

900～1,200ボリーバル

○家具付き・食事無し

1,300～1,500ボリーバル

(但し、掃除のための女中がつくのが一般である。)

② 2ベッドルーム・アパート

○家具無し

1,500～2,000ボリーバル

③　3ベッドルーム・アパート

○家具無し

1,800～3,000ボリーバル

②、③で家具付きの場合は、約2割増になる。専門家の場合、滞在が2～3年なら、家具付きのアパートを捜す方がよい。

(ハ)　ホテル

①　短期滞在のホテル

カラカス市内にはヒルトン、インターコンティネンタルなど国際的水準のデラックスホテルが4～5軒あり、また二流でもバス、エアコン付きの快適なホテルがたくさんある。但し、セマナ、サンタ等の連休時には混むので数ケ月前からの予約が必要である。

カラカス市内主要ホテルの料金（食事ぬき）は次の通り。

ホテル名	シングル	ダブル
カラカス・ヒルトン	150ボリーバル	183
タマナコ（インター・コンティネンタル）	124～132	144～152
ホリデー・イン	112	136～157
コンティネンタル・アルタミラ	85	105
ラ・フロレスタ	60	72

②　長期滞在のホテル

家具・台所用品等の備えつけられたレジデンシャル・ホテルが多くあり、赴任当初のアパートが見つかるまでの長期滞在に便利である。

一例をあげると、

レジデンシアル・ビナリ　　９５ポリーバル

（２ベッドルーム、家具・台所用品つき）

なお、ホテル利用は赴任当初のアパートが見つかるまでの間だと思われるので、出発に先出ち現地大使館に条件を言って手配してもらうのがよい。

③　ホテル滞在上の注意

ホテルの内外において盗難には充分の注意を要する。たいていドアにのぞき穴があるので、この穴から訪問者を確認してからドアを開ける用心深さが必要である。

チップは、ポータに対し荷物１個につき２ポリーバル、ルーム・メイドには２～３日滞在ならば出発日に１０ポリーバル程度おけばよい。

ホテルでの食事には１０～１５％のサービス料金が加算されるが、通常食事料金の１０％程度のチップをさらにおくようである。（ホテル以外のレストランでも同じ）

(二)　什器・備品

①　携行を必要とする食器類等

日本食器、調理器具（飯茶碗、お椀、急須、湯呑、しゃもじ、箸、出刃包丁等）は売ってないので持参する必要がある。トースター、ミキサー、電気釜等の小さい電気器具（１１０Ｖ・６０ＳＣ）もよく使う家庭では、持って行く方がよい。現地でも買えるがかなり高価である。鍋類は、現地でアルミ製、ホーロー製、テフロン化工品等豊富にあるが、蒸し器、スキヤキ鍋、中華鍋等は持参する方がよい。洋食器類は豊富に売っているが、ほとんど輸入品で高価なので、当初荷物が着く迄の分は買うことにしても、ある程

度持って行く方が良い。

また、床はほとんどの家が大理石の床なので、カーペットも持って行けば重宝である。現地でもたくさん売っているが高い。

② 入居当初購入を必要とする物

家具つきアパートの場合、冷蔵庫、洗濯機、厨房設備、食卓セット、応接セット、ベッド、電燈器具（シャンデリア等）が付いているが、足りない場合は買わねばならない。その他、テレビ、ラジオ、寝具（シーツ、毛布、枕）、台所用品、灰皿、掃除機、ブリドーラ（床みがき機）、掃除用具等、入居したその日から必要な物がたくさんあり、一度では揃えられないので、仮住居（ホテル）に滞在中に少しずつ買っておくと良い。

価格の一例

	BS
応接セット（長椅子1、ひじ掛椅子2、テーブル1）	6,500
食卓セット（テーブル、椅子6～8）	
ベッド（シングル木製、無装飾、マット付き）	1,350
冷蔵庫	4,000
洗濯機（全自動）	2,500
レンジ	3,000
寝具一組（シーツ、枕、毛布、毛布カバー、ベッドカバー）	300
掃除機	360
ブリドーラ	800
テレビ（白黒・小型）	1,000

電気製品は日本のメーカーの事務所もあるので訪ねてみるのも一案である。

(ｲ) 電気・水道・電話・ガス

電気：１１０ボルト、６０サイクル

電気代の支払いは２ケ月毎に集金に来る。最少限の電気器具使用で２ケ月で１２０～１５０ボリーバル位。集金に来た時不在等で支払えなかった時は近くの薬局等で取次いでくれる。支払いが遅れると止められる事がある。停電はほとんど無い。

水道：カラカスでは上水、下水共完備している。アパートの場合、水道代は普通家主の負担である。時々断水するが、アパートの貯水タンクが大きければ、たいてい水が出なくなる事はない。カラカスでは水道水は変な臭いや味もなく、一応飲める事になっているが、貯水タンクに一度たまる為不潔になる事も考えられるので、生では飲まない方がよい。

電話：電話代は国際電話等をかけなければ毎月最低料金の２４ボリーバルで済む。新しく設置する場合は６ケ月くらいかかるようであるから、はじめから電話のあるアパートを借りるべくアパート捜しをする方がよい。混線や間違ってかかる事、また事務上の間違い（料金等）でトラブルが多い。

ガス：ガスはプロパンガスで、台所のコンロ、オーブン、また家によっては湯沸器にも使われている。ガス代も毎月集金に来るが、これはその時に支払えなくても、次の時でも差支えない。１ケ月８.５～１０ボリーバル位。

いずれも入居の際に、すぐ使えるようになっているかどうか家主に確めておくとよい。

ゴミはアパートの場合、ダストシュートに捨てるだけでよく、後はコンセルヘ（管理人）が始末してくれる。また廊下、

階段、ガレージ等の共通の場所も管理人が掃除、管理する。

2. 食　品

① 一般的食料事情

スーパーマーケットで全てのものが調達できる。また、肉、魚、野菜・果物、ハム・ソーセージ等の専門店もあり、新鮮なものが手に入る。乳幼児の粉ミルク、離乳食（びん詰）も豊富にある。従って、価格、品質（添加物等）を問題にしなければ一般的に食料については問題はない。

② 日本食品の入手状況

イ）現地にあるもの

醤油 ― 缶詰のものがあるが、高価で味も落ちる、遠い所まで行かないと買えない等の理由から、ある程度持って行った方がよい。味の素はスーパーマーケットに売っている。その他、豆腐、しいたけ、ラーメンが中国人または中華料理店から入手できるが、いつでも、いくらでもという訳にはゆかない。米は現地米は粘りがなくパラパラしているので、もち米（入手できる）を混ぜて圧力鍋で炊くとある程度御飯らしくなる。但し、専門家の場合、大使館員がカルフォルニア米を年一回（１０月頃に）輸入する際頼んで一緒に買ってもらう事も出来る。また季節的に（正月前など）種々の日本食品を日系人の店で輸入・販売することもあるが、品種、数量などの点であまり当てには出来ない。

ロ）現地にないもの

みそ、日本茶、わさび、和がらし、のり、わかめ、こんにゃく（粉末を持参するとよい）、昆布、かつお節、小豆、

そば、うどん、カレールウ（カレー粉はある）、片栗粉（コーンスターチはある）、米酢（合成酢はある）、日本酒、みりん、だしの素（コンソメスープの素はある）。

荷物を船便で送る場合、引き取る迄非常に長い期間がかかるので、米、豆類、乾麺類は虫がついたり、湿気たりするので、持ってゆかない方が良い。麺類（うどん、そば）は各家庭で手打ち、小豆は現地の黒い豆で代用するか缶詰を持参する。

③　水、燃料等

水：飲料水には、アグアミネラル（びん詰）を使う。週一回業者が廻って来る。２びん常備するとして、最初にびん代、スタンド代を入れて５８ボリーバル、次回からは空きびんと引換えに水代１びん４ボリーバル（１びん１０ℓ）。生水以外の調理用には水道水で充分間に合う。

燃料：調理用燃料は電気又はプロパンガス（前述）。冷暖房は全く必要ない。

④　日本食レストラン

日本食レストランは「家紋」という店が１軒ある。ここで醤油なども買うことが出来るし、時々は専用に特別に栽培させている日本風野菜（白菜等）も売ってくれる。単身者用に月極めで定食のサービスもしている。

中華レストランはカラカス市内のいたる所にあり、地方都市にもかなりある。

⑤　食物についての注意

何でも有るとは言え、野菜類の品種の違い、肉類の品種の違い、魚の鮮度等、問題は多いので調理の工夫が必要な事は

もちろんだが、早く現地の食品に馴染むようにせねば仕方がない。風土も違い、暑い所でもあるので、食品衛生には充分気をつけること。特に生野菜はよく洗い（水道水で洗った後、アグアミネラルで洗う）、レストラン等では食べない方が無難である。

食料品価格の一例（単位：ボリーバル　1ボリーバル≒70円）

品　　名	数量	価　格
米　（現地米）	1 Kg	1.25 BS
パン　食パン	1包	2
フランスパン（長）	1本	2
（小）	4ケ	0.50
肉　ロミート（ヒレ）	1 Kg	24
ソロモ（ロース）	〃	19
もも肉	〃	19
肩　肉	〃	8

値上りの傾向があり、1年間（1975年～76年）で約30％高くなっている。

豚　肉	1 Kg	11　BS
鶏	1羽	12
ハ　ム	1 Kg	26
ウインナソーセージ	〃	18
卵	1ダース	4
牛　乳	1 ℓ	1.65
バター	200g	2.40
チーズ	1 Kg	20～40以上

魚　介	えび（大）	1 Kg	38　BS
	（小）	〃	25
	あじ（中）	1 匹	0.50
	まぐろ（刺身用）	1 Kg	30
	鯛　（中）	1 匹	10
	鮭（輸入品冷凍）	1 Kg	70
	スモークサーモン	〃	130
小麦粉		1 Kg	1.85
さとう		〃	1.25
サラダ油		2 ℓ	14.75
野　菜	玉ねぎ	1 Kg	3.50
	じゃが芋	〃	2.50
	大根（小）	1 本	1
	人参	1 束（2～3本）	1.5
	キャベツ	1 ケ	3.50
	レタス	〃	3.50
果　物	バナナ	1 Kg	0.80
	オレンジ	1ダース	5
	グレープフルーツ	〃	4
	メロン	1 ケ	4～5
	マンゴ（大）	〃	3
	いちご	1 Kg	16
	すいか	〃	1.50
	りんご	1 ケ	1.50
ウィスキー（ジョニ黒）		1 本	52
タバコ		1 箱	1.1

(ハ) 外　　食

単身者用のアパートで食事付きのものを見付けることは非常にむつかしい。そこで単身者の場合、外食とならざるを得ない。

外食の場所としてレストラン及び軽食を提供するカフェテリアがある。多くの日本人は日本レストラン「家紋」を利用している。

レストランは一般的に高く、一食平均２０～３０ボリーバルかかるようである。カフェテリアは、居住地区においても随所にあり、安い値段で軽食を提供している。ただ、現地独特の料理が主であるため、その雰囲気とともに、味に慣れることが必要である。（例えばメニュー表が準備されてなく、注文にまごつく。）

3. 衣類・日用品

イ）衣料事情

① 一般的衣料事情

総じて、衣類はあり余る程豊富に売っているが、品質・値段の点で不満が多い。例えば純綿のものがあまり無い。仕立ても悪く、比較的小柄な人にはサイズが揃ってない。下着、くつ下類は特に質が悪く、値段が高い（日本の２～３倍）。しかし値段さえ気にしなければ、輸入高級品（オートクチュール）はたくさんあるので外出着には不自由しない。はきものは男女共比較的良質のものを買うことができる。

② 必要とする衣類

カラカスは一年中日本の初秋のような気候で、服装は年中夏服〜合服でよいが、乾期（１２月〜３月頃）の朝夕は比較的涼しく、薄手のカーディガンやセーターなども着用する。寝具は薄い毛布程度。寝間着も綿の長袖のもの。乾期にはネルのものでもよいくらい冷え込むことがある。雨傘はほとんど使わないが一本は必要である。

ビジネスウェアは勤務先によって背広、ネクタイ着用の所も、ラフな服装でよい所もある。パーティ用にダークスーツも必要である。普段着は半袖又は長袖のＴシャツ、ポロシャツ等、日本で防寒用以外のものが何でも着られる。

女性の場合も同じだが、夜のパーティではほとんどの人が裾の長いドレスを、また国際的なパーティでは着物（訪問着）を着る人が多い。

③ 携行すべきもの

男女とも下着類は充分な量を持ってゆくこと。日本の室内用のスリッパに当るものは売っていないので、室内で靴をはきたくない人は持って行くと良い。（サンダル、ゴムぞうりは売っている）婦人服はある程度生地を持って行って現地で仕立てるのも一案である。

(ロ) 日用品

特に入手困難なものはないが、ヴェネズエラ製のものは質が悪く、アメリカ、ヨーロッパ、日本等からの輸入品は値段が高い。特に文房具（鉛筆、クレヨン、鉛筆けずり、ボールペン等）は日本製品に優るものはないので、余分に持ってゆく方がよい。化粧品は日本のメーカーは無いが、レブロン、マックスファクター等、日本でも普及している外国メーカーの

ものは豊富にある。西和ー和西の辞書はないから家族の分も持ってゆくこと。

日用品・衣類価格の一例　　（1ボリーバル≒70円）

品　　名	数　量	価　　格
タ　オ　ル　ヴェネズエラ製	1枚	15 ボリーバル
〃　アメリカ製	〃	40
バスタオル　ヴェネズエラ製	〃	40
〃　アメリカ製	〃	100
石　け　ん	1ケ	1.5
トイレットペーパー	4巻	5
ティシュペーパー	1箱	2
クレヨン（6色）	〃	2.50
ネクタイ	1本	40 以上
〃　フランス製	〃	150
背　　広（既製品）	1着	800〜1,200 以上
ポロシャツ	1枚	50〜 100 以上
Yシャツ	〃	60〜 100 以上
替ズボン	1着	100〜 200
ワンピース（ロング）	〃	800〜1,000 以上
パンタロン（女物）	〃	50〜 100 以上

(ハ) 乳幼児を同伴する場合の注意

- 食料、日用品については特に問題はない。幼児用の絵本はあまり売ってないので少しは持参するとよい。
- 衣類では、おむつカバーはナイロン製のものしかないので、綿毛のものを使う人は、大きいサイズのものも持ってゆくこと。子供の誕生日パーティや休日の公園等でも女児

は長いドレスを着ている子供が多い。（もちろん現地で買える）

- 病気に対する薬は何でもあるが、日常茶飯事の小さい傷や虫さされの薬は到着した翌日からでも要るかも知れないので、当座の分は使い慣れたものを持参するとよい。

4. 使用人

① 職業紹介所等

職業紹介所（民間組織、口入れ屋と呼ばれているもの）があることはあるが、女中を雇うためには、日本人はあまり利用していない。普通、信用のある地位にある人、家主、管理人、あるいは在留邦人から紹介を受け採用する。

家主が外出中等に、家財の持出し、貴重品の紛失などの問題が起きている関係から、この方法が最も信用がおけ安全である。

② 給与等

カラカスは一般に人件費が高く、女中は住込み、三食付きで月８００～９００ボリーバル、食事を別にする場合は、その他に食費として２００～３００ボリーバルが相場のようである。また通い（パートタイマー）は１日４０ボリーバル（昼食付）で、週１回とか、２回雇っている家庭も多い。作業服、靴を提供する。

専門家の場合、パーティや現地の人との交際上、夫婦で夜間外出せねばならない機会も多いので、乳幼児のいる家庭では住込みの女中が望ましいが、給料との兼ね合いからせいぜい週２回程度しか雇えない。外出の時はその都度ベビーシッ

ターを雇う（1時間4ボリーバル）が、なかなか適任者が居ない、子供の方で馴染まない等問題が多い。

他に、一戸建ての家に住む場合は庭師を月2回ぐらい（1回50ボリーバル）雇っているようである。

③ 雇用、解雇に際し注意すべき事項

契約に際し、特に文書を交換するというようなことはないが、給与の額、仕事の範囲、勤務時間等をはっきりさせておく必要がある。

クリスマスにアギナルド（ボーナス）を支給する習慣がある。

解雇の際は一ケ月前に予告し、1ケ月分の給与に相当する退職金を支払う。

5. 医　　療

(イ) 医療事情

カラカス、マラカイボなど主要都市の私立有名病院では設備も完備し、優秀な医師もいるが、一般的に医療技術水準は低いといわれている。

無料の国立社会保障病院は混雑するうえ待遇もよいとはいえず、外国人は利用していないようである。

専門家の場合、所属機関の附属病院を利用できる便宜供与があるのが通常であるが、これらの医療機関は混雑がひどく設備も十分でないため、私立開業医を利用している。

私立医院の費用は非常に高い。

① 医療施設の利用方法

一般の診療は、公立も私立も予約制で、前もって電話で

予約するようになっている。但し、急病の場合はその限りでなく、救急病院があり診てくれる。

救急車の利用（公共のもの及び病院の有するものの2種類がある）もできる。

私立の医院でも顔なじみになると救急の場合のとびこみができるようである。又往診についても可能である。

② 日本人医師の有無、大使館医務官の有無

ヴェネズエラには日本人医師はいない。また大使館医務官もいない。年に一度、日本人医師の巡回医師団がまわってきて医療相談に応じてくれる。但し検査、診療は行わず健康相談のみである。

③ 出産の安全性

出産について特に問題があるとは聞いていない。ただ環境が日本と違い、情操豊かな取扱いを受けられない場合があり、ここからくる不満が日本女性に多いようである。

出産のための入院は通常2～3日と短い。

(ロ) 医薬品

世界の有名医薬品が各種市販されており、処方に従うならその効果は日本の場合と異なるところはない。

ただ、赴任時なれるまで、日本で使用していた持病特効薬、歯の痛み止め、常用胃腸薬、解熱剤、風邪薬、目薬、下痢止め、救急用具と外傷薬は持参した方がよい。すべての薬品の輸入が禁止されているため、日本で常用する医薬品は赴任時の携行荷物及び引込し荷物に入れて持ってくるのがよい。

(ハ) 疾病の種類

マラリヤは時々地方で発生するニュースを聞くが、ほとん

ど撲滅されたといってよい、特に注意を要する風土病はない。特に、カラカス等の都市部では衛生環境も問題なく、普段の注意さえ怠らなければ病気にかかる可能性は日本にいるよりかえって少いようである。

乳幼児を同伴する場合、各種の予防注射の施し方が日本の場合と異なるものがあり、早い時期に担当医に相談することが必要である。（日本の母子手帳を携行することが望ましい）

① 風土病的なもの

カラカス等の都市で生活する限り、マラリヤ等の心配は無い。

飲み水によるアメーバー赤痢に注意しなければならない。また、急性肝炎にかかる事例もかなり聞いている。いずれもヴェネズエラにおいて治療可能である。

ポリオの発生が多いといわれているので、幼児のワクチン接種は確実にしておくことが必要である。

② 日本出発前に特に予防注射しておくべきもの

入国に対し法定上必要な種痘だけでよい。

(二) 健康管理上の注意事項

日常生活における普段の注意（特に飲・食物）を行う以外、特別の注意事項はない。

スペイン語社会なので、医療を受ける場合に非常な困難を感じる（特に会話に慣れない赴任当初期）ので、とにかく病気・けがにかからぬ用心が大切である。

カラカスは熱帯圏にあるとはいいながら年間を通じてしのぎやすい気候で問題はないが、マラカイボ市等海抜高度の低いところにある都市は猛暑であるので、ゆっくりした仕事の

ペース等により早く環境になじむことが必要であろう。

又、スポーツ等の趣味をもち、気分転換をはかることが精神衛生上必要と思われる。

6. 子弟の教育機関

(イ) 教育制度の概要と教育機関

ヴェネズエラの学校教育は、初等教育、中等教育、師範教育、技術専門教育、高等教育から成っている。

初等教育は、1年から4年までの基礎教育と、5・6年の初等高等教育に分かれている。中等教育は5年制で、1年から3年までの基礎学期と、4・5年の専門学期とに分かれている。

師範教育は5年制で、初等教育および幼稚園の教員養成を目的としている。技術教育には職業技術専門学校と工業専門学校とがある。

高等教育には、2年コースの短期大学と総合大学とがある。総合大学は、国立7校と私立3校がある。

義務教育は、現在初等教育の6年間であるが、近々9年にするよう検討中である。なお、初等教育から大学まで、国立学校はすべて無料である。

(ロ) 通常専門家の子弟が利用している教育機関の実例

①カラカス日本人学校があり、多くの日本人の子弟が利用している。(小、中学校)他に、②アメリカンスクールや、③ ヴェネズエラの公、私立学校も若干利用されている。幼稚園はたいてい住居の近くにあるものを利用しているようである。幼稚園だけの所もあるが、多くは小、中学校に付属し

ている。

(ハ) 授業料、その他

	授業料	授業時間	通学時間
①日本人学校	500ボリーバル/1ケ月	8:30～2:30	スクールバス 40～50分
②アメリカンスクール	1,500 〃	7:30～2:00	30分
③現地学校	120～250 〃 (学年が上るにつれ高くなる)	※	

※学校によりまちまちで、午前中だけの学校（7:30～12:30）午前から午後にかけての学校（7:30～2:00）昼休みに一度帰宅して、午後また出かけてゆく学校（8:00～11:30、2:00～4:30）などといろいろなケースがある。公立学校は午前、午後の2部制で午前の部は7:30～12:00、午後の部は1:00～5:30となっている。

(ニ) 通学方法

日本人学校は郊外にあるので、スクールバス通学となる。もし住居が多くの日本人の住んでいる地域から著しく離れた所だと廻って来ないかも知れない。

たいていの学校はスクールバスを持っていて送迎しているが、徒歩又は自家用車で通学している者もある。

(ホ) 給食

日本人学校は各自弁当持参。他の学校も給食はないようである。弁当とおやつを持って行く。簡単なホットドッグ程度は学校でも買える。

7. 娯楽設備

(イ) 保養地、ゴルフ、ボーリング、映画等

カラカスは海が近く（車で1時間以内）、また1年中泳げるので海水浴が最もポピュラーな野外のレジャーである。カラカスから最も近いカリブ海岸には、多くの海水浴場が整備されており、ホテルも多くある。カラカスとは素晴らしい高速道路で結ばれているが、日曜日等の休日は交通が混雑する。

カラカスから約５０Kmの山の中（海抜2,０００ｍ）にドイツ移民の開いた芸術村（コロニア・トバール）があり、高原の別荘地としても知られている。

また、カリブ海のマルガリータ島は、観光と免税ショッピングの島としてにぎわい、年間多くの人が訪れる。

カラカスの外港、ラ・ガイラ港はカリブ海周遊の観光船の基地にもなっており、毎日の新聞に周遊航海の広告が出ている。

ゴルフ場は、カラカス市内に２つ、郊外に２つあるが、市内の２つは日本人の利用は不可能のようである。郊外のもの（ラグニータ及びフンコ）も、会員券が高く、新しく会員になることは実質上不可能であり、会員と一緒に行ってビジターとしてプレーすることになる。

費用はグリーンフィー（ラグニータ７０ボリーバル、フランコ４０ボリーバル）、キャディフィー２５ボリーバルで、安くはない。

ボーリング場はカラカス市内に多くあるがあまりはやっていないようである。

映画館は、カラカス市、地方を問わずたくさんあり、日常

娯楽の中心になっている。ただ上映時間がすべて夕方及び夜間になっている。

その他、娯楽でさかんなものは競馬（場外馬券もある）、宝くじ、闘牛（カラカス市内にも闘牛場がある）などである。

演劇、音楽会も盛んで、世界の一流演奏家等がしばしばカラカスを訪れる。

(ロ) 通常の余暇のすごし方

休日の娯楽としては海水浴が最も一般的である（プールは極めて少ない）。又日本人の場合はゴルフが盛んで、休日のゴルフ場（フンコ）は大半が日本人プレヤーとなる。また日本人の間では麻雀も盛んである。

専門家の場合、当国政府機関の勤務時間が午後4時まで、と帰宅が早いため近くの公園、プラザ（市内のいたるところにある）を散策したり、映画を楽しんだりすることができる。ただスポーツ（テニス、水泳等）は殆んどがクラブ制になっているため、クラブの会員にならないかぎり難しい。

また、専門家の場合、現地における勤務条件の一つであるバケーション休暇（通常は年間１５日間、土、日を含めて２３日間の連休とできる）をとることができるので、これを利用して国内及び国外旅行を楽しむことができる。

(ハ) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無、料金

日本人クラブはない。

スポーツクラブとしては、テニス、水泳、乗馬等のクラブが多くあるが、いずれも入会金が高く、日本人はあまり利用していない。

（技術）専門家の場合、カラカスに政府関係技術職員のク

ラブがあり（ここにはプール、テニス、バスケットコート、ボーリング場がある。）このクラブの臨時会員となることができる。利用料金は月１０ボリーバルである（入会金は不要）

8. 電　　力

電圧１１０ボルト。

サイクル６０サイクル。

コンセントは日本でのものがそのまま利用可能。

9. 交　　通

(イ) 交通事情

① 一般交通機関の発達度、種類

ヴェネズエラ国内には１ケ所（プエルトカベジョ～バルキシメート間約１００Km）に鉄道があるが他はすべて自動車又は飛行機によっている。道路の整備状況は素晴らしく、よく舗装された高規格の道路網が整備されている。国内各都市へは高速バスが連絡している。また、国内航空の発達も著しく、利用も多い。

自動車利用の場合、猛烈なスピード運転（１２０～１４０Km／hr）をするので死亡事故が頻発しているので、自分で運転する場合は細心の注意を要する。又、飛行機利用の場合、予約を確認しておいても空港へ行ってみると満席であるというケースもままあり、早めに空港へゆく等の注意が必要である。

カラカス市内では地下鉄建設が計画されているが、現在のところ交通機関は、

○タクシー（無線タクシー及び普通の流しのタクシー）

○ポル・プエスト（乗合いのもので定められたルートを運行する。タクシー及びマイクロバスの２種類ある。）

○バス

日常生活、レジャーなどには自家用車は必需品で、都市生活者の殆んどは自家用者を持っている。

② 道路事情、運転上の注意

国内の主要道路はよく舗装され、規格も大きい。有料の高速道路もよく発達している。ただ、市街を出ると猛烈な高速運転をする上、整備不良の自動車、飲酒運転などにもより、よく死亡事故が発生している。特に夜間の運転は危険が多い。

カラカス市内には、東京の首都高速道路をしのぐ立派な高速道路網が整備されているが、朝、夕の通勤時には混雑する。一般市街道路は殆んどが一方通行となっているためルートをおぼえるまではなかなか運転しにくい。市内の交通混雑はひどく、タクシー、バス、ポルプエストは停留所以外でも頻繁に停車するので車の流れを乱す。

また、歩行者のための歩行帯、横断歩道が無いところが多く、歩行者は随所で流れる車をぬって横断するのでこれには最大の注意を要する。

交差点の信号無視、駐車違反、一方通行の道路への進入等はごく普通のことであり、安全運転が要求される。

③ 特に注意すべき交通法規

車は右側通行である。（市内の一部に左側通行ゾーンがあるが、道路にペンキでその旨の表示がある。

殆んどの道路が一方通行になっており、通行方向の表示があるが、これがとれているところが多く、他の車の動き、車の駐車の向きを注意して判断することも必要である。

駐車については道路の側に可又は不可のカラー表示があり、これに従う。

④ 交通事故の取扱い

保険に入っている者は非常に少ない。車対車の場合事故を起こした地点でそのままの状態でお互いの車を止め（これを動かした方が悪いとされる例が多い）、交通巡査の到着を待ち警察の判断に従って被害者、加害者を決め、示談によって損害賠償を行うのが一般である。

専門家の場合、必らず保険に加入し、事故の場合大使館に連絡して、大使館の顧問弁護士に相談するのが最善の方策と思われる。

⑤ 事故補償（保険制度、保険金、補償額等）

保険は強制加入ではないが、事故をおこした場合のトラブルをさけるためにも入っておいた方がよい。

保険金額は、車種によって異なる。

(ロ) タクシー、ハイヤーの利用料金

タクシーはたくさん走っていて、いつでも利用できる。又電話で呼べる無線タクシーもある。

タクシーにはメーターがなく（一部、試験的にメーターをつけたものもある）、目的地によってその都度運転手と交渉して決める。このため、乗車する前に運転手に目的地を言い、料金を聞くのが最も確実である。

無線タクシーは、運転手の教育もしっかりしていてトラブ

ルはほとんど無い。女子等は無線タクシーを利用した方が無難である。

料金は市内の１地域（例えば旧市街内又は新市街内）内では６～８ボリーバル、２地域（例えば新市街から旧市街へ）にまたがるときは８～１０ボリーバル程度。夜間は若干高くなるようである。またチップは不要。

カラカス市内から空港までは４０～５０ボリーバルである。

なお、バスは0.5ボリーバルと１ボリーバルの２種類、ポル・プエスト（乗合タクシー、マイクロバス）は１ボリーバルである。

(二) 自動車購入

① 購入方法・融資方法

ヴェネズエラでは、現在のところ、メルセデスベンツ、ルノー、ランブラー、クライスラー、ファイアット、フォード、シボレー、フォルクスワーゲンの各社が２２種の自家用車を組み立てているが、今後は部品などの国産率を増すため車種は少なくなる傾向にある。

輸入車に対しては一括３５０％の関税が課せられる。

専門家の場合、自動車の免税輸入の特権が供与されるのが普通であるので、日本（場合によってはＵＳＡ）で購入し、船便で送る手もあるが、手に入るまでに多くの期間（５～６ケ月は必要と思われる）がかかる上、輸送費もかかってあまり得策ではないようである。

現地組立の新車を買うか（但し、非常に高いため、ＪＩＣＡの規準による赴任当初の融資金額5,０００ドルでは購入不可能）又は中古車を買うことになろう。

中古車は豊富にあり、当初の融資金額内でみつけることができるが、不良車が多いため、しっかりした店から買うか、または帰国する日本人の使用していたものを譲ってもらうのが安全である。

② 免税輸入特権について

技術協力専門家の場合、免税輸入特権が与えられる。しかし、手続きはかなり面倒で、関係官庁へ日参し何週間もかかるのが普通である。

③ 帰国時の売却方法・課税

免税特権を利用して購入した場合は、2年以内は転売できない。

④ 現地代理店（購入・修理・整備等）

日本製の場合、トヨタ、日産のジープが多く利用されており、現地代理店もあるが、普通乗用車はあまり扱っていない。また日本人技術者もいない。

①に挙げた車種は現地代理店があり、部品もそろっている。

(ホ) 運転免許

① 国際運転免許証の有効性

国際運転免許証を所持していれば、そのままヴェネズエラ国内で自動車を運転することができる。

ただ、この免許の有効期間が1年間であるため、その間に現地の免許を取得しなければならない。

但し、専門家の場合（公用パスポートを所持するものに対し）、日本の国内免許証を持ってくると、国際免許の有効期間をさらに1年（従って計2年間）延長してくれるので、国際免許と同時に国内免許を持ってくることを勧める。

② 免許取得の方法・経費等

自動車運転免許試験場で法規テストと実技テストを受けて合格すれば免許が貰える。

但し、法規テストはスペイン語であり、○×式の他に語句の意味を述べる記述式のものがあり、スペイン語に相当精通しないと語学の面でむつかしいようである。

このため、辞書の持ち込み等を許す特別の試験があり、多くの日本人はこれを利用しているようである。ただこの場合、経費が３００ボリーバル程かかるそうである。

実技試験は日本のようにむつかしく無く、自分の車を持って行って少し動かしてみるだけでＯＫとなる。

(ハ) ガソリン代

ヴェネズエラは石油産出国であるため、ガソリンは極めて安い。いろいろの種類のものがあるが、最も高いもので１ℓ 0.３５ボリーバル（３５センチモ）である。

10. 為　　替

(イ) 相場……公定・実勢レート等

石油産出による豊富な外貨を保有し、１米ドル＝4,２８５ボリーバルと固定している。相場の変動は無い。

為替規制はなく、現地通貨（ボリーバル）は無制限に米ドルと交換可能である。

ヤミドルは存在しない。

(ロ) 対日送金

（わからない）

(ハ) 滞在費等の受取方法

ヴェネズエラ（カラカス）には東京銀行の支店が無く、ＪＩＣＡからの給与等は東銀ニューヨーク支店へ振り込まれる。

東銀の小切手をもって当地の銀行で米ドルから現地通貨所要額に換金することになる。

ただこのとき、東銀の小切手であるとなかなか換金してくれず、特に大きな金額の場合（５００ドル以上）は殆んど換金不可能である。

このため、現地の銀行に口座をもち、ニューヨーク東銀支店から現地銀行に振り込んでおくことがよいと考えられる。

但し、専門家の場合は、大使館の利用している銀行を利用して、大使館の換金日に便乗して東銀小切手を換金することができる。

(ニ) 現地銀行口座開設手続

保証人も必要なく、簡単に口座を開設できる。

11. 出入国管理

(イ) 税関検査

① 一般事情

書類審査はなく、各人の荷物を係官の前で開いて検査を受ける。検査はそれほど厳しくはないが、薬品類・食料品には厳しい。日本からはるばるもってきた貴重な日本食品が没収されたという例をよく聞く。

公用パスポートを持っていても、一般旅客と同じように調べられる。

② 持込禁止品（国際的禁止品以外の）

国際的禁止品以外は、薬品・絵画・プレーヤーが関係当局の許可なしでは持込めないことになっている。

しかし、日常の医薬品等は赴任当初から必要なので、小量を荷物に入れて持ち込まざるを得ない。

③ 入国に際しての注意事項

特に問題はない。特に公用ビザであると手続きは簡単である。

ただ入国手続きのうち、入国管理のカウンターで書類に必要事項を記入させられるか、スペイン語で記載してあるのでまごつくことがある。

④ 帰国に際しての注意事項

査証が5種類あるが、暫定査証及び滞在査証を有する者がヴェネズエラ国外へ出る場合は、その都度ソルベンシアと呼ばれる税金払込証明書を用意しなければならない。これが無いと出国できないので注意を要する。

専門家の場合（公用パスポート所有者）は、特定査証であり、ソルベンシアは必要でない。

⑤ 持出禁止品

特にない。空港でも出国に対して荷物の検査は無い。

(ロ) 外人登録の有無

専門家の場合は、大使館へ届け出るだけでよい。

(ハ) ビザ更新手続き等

大使館に本人の身分、任国との関係等を証明した手続を作ってもらい、これを持って外務省の儀典課へ行けば変更手続きをしてくれる。

特に問題は無い。

(ニ) 任国外旅行の手続きと注意

パスポートに記載されている渡航先以外の国へ旅行する場合は、渡航先追加の手続きをしなければならない。

旅行の必要性を大使館に説明し、必要書類に記入し、大使館に申請する。（当然ＪＩＣＡ本部へ許可を得ること。「派遣専門家の手引」参照。）

妥当と認められる場合、隣国については大使館の権限で渡航先追加を行ってくれるが、その他の国に対しては外務省本省へ問い合わす（公用パスポートでの旅行の場合）ため、これに相当の期間を要するため、２、３ケ月前から事務手続きを開始しなければならない。

行先国のビザについては、必要のところ、不要のところがあり、大使館で教えてくれる。

カラカスに近い（約２０Km）マイケティア空港は、世界各国へ結ぶ航空路のターミナルで、カラカス市内には多くの旅行代理店業者があり、切符等の手配は簡単である。

ただし、予約確認をしておいても予定の飛行機に乗れないことがたびたびあり、しばしば問題が生じている。

12. 便宜供与

(イ) 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

現金供与は無い。

② 出張旅費、公用車の提供、ガソリン代の支給の有無

出張の場合は、必ず任国側職員と一緒にゆくことになり、

航空機代金、宿泊料等を支払ってくれる。出張旅費が専門家に渡されることは無い。

又、国内出張の大部分は公用車（ジープ）を利用する。

自宅、役所間の毎日の通勤に公用車（運転手つき）利用の便宜が与えられる。

プライベートカーを業務用にしてガソリン代を支給されることは無い。

③ その他（住宅提供・現物提供等）

住宅提供は無い。

事務用品は、レポート用紙及びファイルが提供される。

技術専門家でヴェネズエラの政府機関に勤務する場合、政府技術公務員のクラブの会員になれ、プール、テニスコート等の利用ができる。

(ロ) カウンターパート、通訳

専門家の受入れに対する認識があいまいで、"役所内に席をおくコンサルタント"という受け取り方をするようである。このため、テーマ毎の仕事を期限を限ってポンと与え、その結果を成果として受けとる。

このため、日々相談しながら一緒に仕事をするという意味でのカウンターパートはつかない。また、仕事の相手もひんぱんに変わる。

必要データ等を収集する場合、責任もってこれに協力するカウンターパートがいないため（勤務のシステムがそうなっていない）苦労をする。また、役割を分担しながら一つの仕事を仕上げる、ということに慣れていないため、結局は専門家が一人ですべてのことをやらねばならないケースが多い。

通訳はいない。

役所の中に英語の話せるものがいるので、英語を介して通訳してもらうことはできる。

(ｲ) 免税特権

専門家には免税購入の特権が与えられる。但し、現実には大使館または所属機関を通して外務省、大蔵省と折衝するなど面倒な手続きがあり、時間もかかるのでこれを利用することはない。

日本から送ってくる身の廻り品等の小量・小額のものは、大使館のみの裁量で免税で引き取ることができる。

13. 通信・運輸

(ｲ) 郵便事情

① 安全性・配達システム

郵便の各戸配達システムもあるが、私書箱を利用する方が確実であり、一般的である。専門家の場合は大使館の私書箱を利用させてもらうのがよい。

配達の確実・安全性は１００％とはいえず、ときどき日本へ着かない、又日本から届かない場合がある。このため、手紙に通し番号を打って相互で確認し合いながら交信するのが最も安全であろう。またしばしば封の開けられた手紙が届くことがある。

小包等は税関倉庫に入り、そこから小包が到着の旨の通知が来るか、これに相当の時間がかかり、また通知を受け取ってから税関倉庫へ行ってこれを引き取るのに手間と時間がかかり苦労をする。

日本から送ってくる雑誌類等もたまに税関倉庫に入ってしまうことがあるので、梱包を簡単に（少し破って中味がのぞけるよう）また表に印刷物であることの明示をする等の心遣いが必要である。

なお、勤務機関宛に直接送ってきたものは、すべて未着（途中で紛失する）であった。

当地から小包を出す場合、日本と違って独得の梱包の仕方（荷物をすっぽり白い布でつつみ糸でしっかり縫いつける）が要求される。又小包を扱う郵便局も限定されている。

当地から小包を出す場合、途中でよく紛失すると言われている。

② 電報・電話サービス

国内電報については利用の経験が無いが、国際電報は簡単に打つことができる。

電話はほとんどのアパートに備えつけられている。但し、名義が前の持ち主であるため電話番号案内には名前がのらない。このため、ひんぱんに間違い電話がかかってくるし、電話帳をたよりに電話して思うところにかからない例が多い。

公衆電話はあるが数が少なく、見付けるのに苦労をする。また、こわれている機械も多い。

国際電話は簡単につながり、日本との通話状態も良好である。

③ 手紙・電報の日本・現地間の所要日数

郵便の所要日数は時によって大きく異なる。

航空便の場合1週間～2.5週間ぐらいの幅があるようで

ある。"速達"にしても特に早くなるようなことはないようである。

④ 主要地方都市との連絡方法

主要地方都市にはみな電話が通じているので、電話連絡が一番確実で早い方法である。

但し、日本のように公衆電話から長距離電話がかけられることはなく、地方都市へ出かけた場合はその都市の公営電話会社（ＣＡＮＴＶ）の事務所を捜して利用しなければならない。

(ロ) 運　　送

① 陸送・海送業者の有無・料金

引越荷物等の大量・重量荷物は、専門の運送業者に頼むこととなる。専門家の場合、大使館の利用している運送業者を紹介してもらいこれを利用するのがよい。

業務資材等は、勤務先の自動車を利用して、直接空港又は港へ引き取りにゆくのが最も確実で早いようである。

② 家財送付上の手続、宛名、注意事項

日本から家財を送付する場合は、大使館気付とする。ただ、大使館気付としても荷物が紛失しないとか、早く引き取れるとかの利点はない。

空港及び港湾における荷物の盗難紛失事例は非常に多く、大使館員の荷物とて例外ではない。

また、荷物を（無税で）引き取るためには、大蔵省からその証明の文書をもらわねばならず、これにたいへんな手続きと日数を要し、５ケ月以上かかる場合もある。その間荷物は猛暑の港頭倉庫（場合によっては露天）におかれて

おり、荷物のいたみがひどい。

従って、こわれやすいもの、保存のきかない食料品等は入れないこと。

③ 帰国時家財送付上の注意

前述の大使館専属の運送業者に一切まかせるとよいそうである。荷造り、手続きすべてやってくれるとのこと。ただ梱包、荷づくりが雑であるため、こわれやすいもの、貴重品は自分でしっかり梱包することが必要であろう。

14. 言　語

(イ) 公用語・英語その他第1外国語の普及度

公用語はスペイン語である。第1外国語は英語であるが、驚くほど通用しない。役所の中でも英語を話せる者は少なく、日常の勤務にはスペイン語は必須である。生活の場では殆んどスペイン語のみで（例えば買いもの、医療、タクシー等）できるだけ早い時期にスペイン語会話を習得することが必要である。

なお、政府関係者などは英語が話せてもこれを使うのをきらう風がある。

(ロ) 現地語事前学習の必要性

(イ)に述べたように、スペイン語会話は勤務・生活上必須であるので、事前に学習しなければならない。

(ハ) 語学学習の施設・受講時間等

カラカスにはスペイン語を教える（英→西）会話学校がいくつかあるが、ＣＶＡ（セントロ・ベネゾラーノ・アメリカーノ）が最も優れており、多くの日本人が学んでいる。

１ケ月半が１コースになっており第４コースで一通りが完了する。

受講時間は、土、日旺を除く毎日２時間で、朝の８時から夜の８時まで教室が開かれている。

個人教授、家庭教師もいるが高くつく。

15. 気　候

気温は、全国土が熱帯圏に属しているため、酷暑の地という印象を受けやすいが、土地の高低によりかなりの差異がある。

海抜６００メートルまでは年平均摂氏２５度、600～2,000メートルは摂氏２５度～１０度である。首都カラカスは海抜1,０００メートルにあり、平均気温は摂氏２１度でたいへんしのぎやすい。

但し、マラカイボ市等の低地（海岸部）の都市では相当に暑い。

雨期（４月～１１月）と乾期（１２月～３月）に分かれており、雨期は日射がはげしく気温は上昇するが、しばしばスコールが降り、さわやかである。

乾期は、朝、晩かなり冷えこみ、よく風邪をひくので注意を要する。

なお、スコールのときは雨具は役に立たず、やむまで雨やどりを余儀なくされる（１時間ほどで止む。）

カラカスに住んでいると、１年中同じような気温で、季節感はない。ときどきは気温の低い高山地方か、気温の高い海岸地方へ出かけることが、心身を健康な状態に保つために必要であると言われている。

16. 治　安

(イ) 一般情勢

ヴェネズエラでは、軍事政権やクデターの多い中南米の中で、２０年近くクーデターもなく、選挙による民主的な政権交替が続いており、政情的には安定している。

一般犯罪についても特に危険だとは聞かないが、スリ、かっぱらいは多いようである。日本人の婦人でこれに合った人が非常に多い。

肩からかけるカバンは特によくねらわれるようである。またバスにはスリが多いと聞いている。

夜間の一人歩きはやめた方がよく、やむを得ない場合は、自動車で外出することが必要であろう。

なお、火器（ピストル）の所持が比較的簡単で、ピストルを携行している者をよく見かける。

(ロ) 夜間外出上の注意

夜間外出に対する制限はない。住宅地域では夜間外出もほとんど危険はないが、下街・飲食店街へ１人でゆくのはさけた方がよい。これらの場所へ出かける場合は、自家用車で行くか、電話で呼べる無線タクシーを利用するのがよいであろう。

(ハ) 緊急時における大使館との連絡方法・集合場所および要領

緊急連絡組織網は、現在日本大使館で作成中ということであるが、まだ出来上っていない。

緊急時の連絡方法・集合場所等についても決められていない。

17. その他

(イ) 対日感情、現地人気質

対日感情はおおむね良好である。ただ日本の地理的位置、文化・風習といったものに対する理解はほとんどなく、日本と中国と混同して語られることが多いのには驚かされる。

当国の人達の東洋人との接触は、カリブの英領植民地から流れてきた単純労働者の中国人ぐらいだったため、人種的偏見の少ない国とはいいながら、（日本人を含めて）東洋人に対する一種のべっ視があるようであり、勤務の場で、生活の場でしばしば不快な目に会うことがある。

一方、ヴェネズエラ人は非常に気位が高く、人に物を教えてもらうこと、また自分達の主張を間違いとされることをきらう。技術指導の場で最大の注意を要する点である。

よく言われるアスタ・マニャーナの習慣はその通りで、仕事のテンポは非常に遅く、約束事もよく守られない。

生活をエンジョイすることを非常に大切にする。性格は一口に言うと、楽天的・自己中心的である。

(ロ) 新聞・雑誌等

専門家には、日本から新聞を送ってこないが、ＪＩＣＡから「EXPERT」等の雑誌がくる。日本の事情に全くうとくなり非常に困ることの１つである。

自分で購読する方法もあるが、高くつくそうである。

大使館へゆけば、日本の新聞があるが、古いうえ、閲覧用に供してないので、断片的に古い新聞を見つけて読むということになる。また持ち帰りが出来ないので家族の者が読むことはできない。

雑誌も、日本に於て注文すれば送ってくれるようである。

日本から送って来る雑誌が、しばしば税関倉庫に保管されることがあり、これを引き取るのに手間と時間を要する事例がよくある。

日本語雑誌の販売店は無い。

テレビは４つのチャンネル（うち２つは国営放送）で放送している（すべて白黒、またスペイン語）。テレビセットは現地では非常に高く（最低1,０００ボリーバル程度）日本から持ってくることも考えられる。このとき、電圧（１１０ボルト）、サイクル（６０サイクル）、チャンネル方式が当地での放送に合うかどうかを確かめておくことが必要である。

ラジオはふつうの中波、ＦＭの局が数え切れないほどあって、１日中音楽を流している。英語放送もある。Radio Japan の日本語放送は聴取できない。受信機は日本で使用しているもので十分である。

(ハ) 風俗・習慣

① 特に禁じられている風俗・食習慣・チップ等

特に禁じられている風俗等はない。むしろ非常に解放的で気取りがなく、どちらかと言えば行儀が悪いともいえる。

ただ近年、アメリカナイゼーションがかなりのスピードで進行し、女性が男性と対等であるという認識、レディーファーストの習慣は尊重する必要がある。

誕生日パーティー等、よく家庭でパーティーを開き、知人を呼んで遅くまでダンスを楽しんだりすることがあるが、深夜にまで騒ぐことは禁じられている。また、カーニバル期間中に、アパートの窓から通行人に水をかけたりする風

習があり、今でもかなり盛んにやられているが、一応禁じられている。

現地の人と一緒になってやっていて、警察にひっぱられることもあるのでやらない方が無難である。

食習慣としても特別なことはない。食事の時間が非常に長く、楽しくしゃべりながら食事を進める。昼食時にもビール等のアルコール類を飲むのはごく普通である。

チップはレストラン等では一般的に食事代の１０％を支払う。その他自分がサービスを受けたときはチップを渡す方がよい。アミーゴ（友達）の関係が一たんできると、その後すべての面でうまくゆくことがある。このためにもチップを有効に活用することが大切である。

② 専門家としての体面

あまりもったいぶらずに、フランクにつき合う方が好かれもするし、仕事もしやすいようである。当地の人は、勤務時間中もよくおしゃべりをするが進んでその仲間に加わり、早く心の通じ合った友人としての関係を作ることが必要と思われる。

服装も、まわりの仲間の様子から見苦しくないかっこうで同じような服装（例えばジーパンにポロシャツ）でつき合うのも何ら問題ない。

専門家がこの国を気に入っているかどうかを常に気にしているので、努めて彼らとのつき合いを行い、食事・習慣等もできるだけこの国のものに慣れ、彼らとの一体感を強めればそれだけ好感をもって受け入れられるようである。

③ 特殊なしきたり・注意

特になし。

レディー・ファースト。人前で煙草を吸う場合、自分が吸う前に必らず相手に勧める。

政治に関する話し（特に共産主義についての論評等）は、しない方がよい。

(二) 理髪店・美容院・クリーニング店

住宅地にあるこれらの店は、一般的に清潔で問題はない。料金は店によって千差万別で、例えば理髪店でもただ髪を切るだけなら安いが、それにひげそり・洗髪・マーサージ・マニキュアなどひとつひとつつけ加えるごとに高くなる。一般に髪を切るだけなら8～10ボリーバル。

美容院は、パーマ80～100ボリーバル、セットのみなら20ボリーバルである。

クリーニング店も多くあり、ズボン・スカートは4ボリーバル、背広上下8ボリーバル、ワイシャツ2ボリーバルぐらいである。セルフサービスで洗うものもあって、これだとかなり安くすむ。

(ホ) 買　物

食料品は、あちこちにスーパーマーケットがあって、これを利用すると値引交渉もしなくてすみ、スペイン語に悩まされることもないので簡単である。

肉はいたるところで豊富に売っているので問題はないが、新鮮な魚を手に入れることはなかなかむつかしい。店の数が少ないうえ、分量が少ないため早朝に売り切れてしまう。サバナ・グランデにオラシオという魚の専門店があり、多くの日本人は

ここまで出かけて買っているようである。

野菜は豊富にある。

日本式のデパートに相当するものとして、シアーズがあるが、売り場面積は小さく、日本のように何でも手に入るというわけにはいかない。

慣れてくれば、セントロという下町で買物をすれば安く買えるようである。但し、高級品はなく、高級品はサバナ・グランデのショッピング街で買うのがよい。

みやげものは、これといったものがなく日本からの旅行者がいつも頭を悩すところである。しいてあげるなら、マラカイボ周辺に生活するガヒロというインディオの作るししゅうが有名であり、市内のいたるところで売っている。

(ハ) 赴任される専門家に対するアドバイス

① 赴任前の、相手国への受入確認を実際勤務する機関にまで十分行うこと。(事務上の窓口機関だけの確認だけでは不十分で、実際に赴任してみると勤務機関で受入の準備ができていなかったり、派遣専門家の立場に対する正しい認識がされてなかったりする)。

② できるだけ早くスペイン語を習得し、十分なコミュニケーションが行えるようにする。そして現地職員とフランクにつき合い、心の通じあう友人としての関係をつくることが仕事を進める上でも大切である。

③ 早く、現地の人達のものの考え方、生活習慣を知り、それに合わせるように努める。

最初はものの考え方、習慣の違いのため、イライラしたり、腹が立ったりすることがあるが、これに一々気をもん

でいたのではこちらの身体がもたない。

早く現地人のペースに合わせるとともにスポーツ等で気分の転換をはかることが必要である。

④ 上記に関連し、家族の者と最初から一緒に赴任した方がよいと思われる。（カラカスに住む限り、快適な都市生活が送れ、生活上の不便さ・衛生上の心配はない。

又、日本からの距離が長いので、後程家族の者だけやってくることは大変な苦労を伴う。）

⑤ 仕事をするにしろ何にしろ、つまるところは「よりよい人間関係」をつくり上げることがポイントである。

陽気で、快活でコセコセしない性格が要求される。

⑥ 現地の人達のペースに合わせることばかりに気をとられていると長い期間に自分の性格も中南米的となり、日本へ帰ってからの勤務遂行に支障をきたすような恐れがある。

十分な自覚が必要と考える。

Ⅱ　大使館連絡先

在ヴェネズエラ大使館

住　所　Embajada del Japón,
Quinta "Maranba",
Calle San José, La Floresta,
Caracas, Venezuela.
(Apartado No. 68790 Altamira)

電　話　2849222

電　略　TAISHI CARACAS

Telex　C. 23363
A. 23363 TAISHICA

LIB